千葉県文書館展示会、訪問記録

2022.12.23　　森　雅城

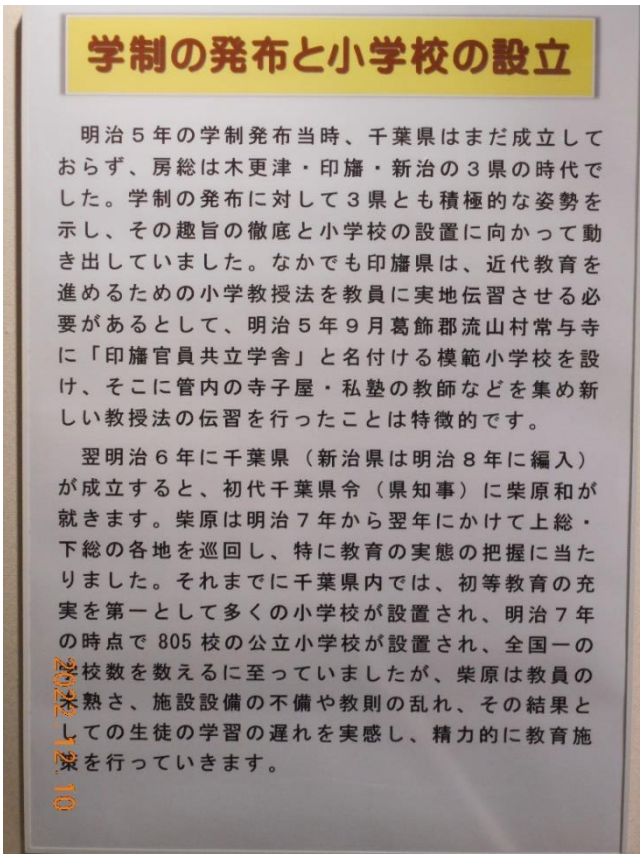
千葉市内で行われている展示会、千葉県文書館、企画展「**房総教育志―明治を生きた先生たち―**」に行ってきましたので、概略を報告いたします。

（案内チラシを別途 PDF にて添付）

内容は、今年が明治 5 年の学制発布から、ちょうど 150 周年になるのに際して、学制発布後の千葉県における教育史について、次の 4 つの内容に分けて展示しています。

1. 明治期の学校教育略史
2. 新しい教員の養成
3. 明治の教育事情
4. 明治教育列伝

この展示は、比較的小規模ですが、千葉県近代教育発祥の地として流山を紹介している我々にとって、学制発布後の県の教育事情の変遷を知る上でも、有益と考えます。



学制の発布と小学校の設立

明治５年の学制発布当時、千葉県はまだ成立しておらず、房総は木更津・印旛・新治の３県の時代でした。学制の発布に対して３県とも積極的な姿勢を示し、その趣旨の徹底と小学校の設置に向かって動き出していました。なかでも印旛県は、近代教育を進めるための小学教授法を教員に実地伝習させる必要があるとして、明治５年９月葛飾郡流山村常与寺に「印旛官員共立学舎」と名付ける模範小学校を設け、そこに管内の寺子屋・私塾の教師などを集め新しい教授法の伝習を行ったことは特徴的です。

翌明治６年に千葉県（新治県は明治８年に編入）が成立すると、初代千葉県令（県知事）に柴原和が就きます。柴原は明治７年から翌年にかけて上総・下総の各地を巡回し、特に教育の実態の把握に当たりました。それまでに千葉県内では、初等教育の充実を第一として多くの小学校が設置され、明治７年の時点で 805 校の公立小学校が設置され、全国一の学校数を数えるに至っていましたが、柴原は教員の未熟さ、施設設備の不備や教則の乱れ、その結果としての生徒の学習の遅れを実感し、精力的に教育施策を行っていきます。

2022.12.10

以上の内容については、以下会場に備え置きの無料のパンフレットにて紹介しますので、そちらの方をご参照ください。（添付ファイル参照）

なお、このパンフレットには、残念ながら流山に明治 5 年 9 月、「印旛官員共立学舎」が設立され、本市が近代教育発祥の地である旨の明確な記述はありませんが、展示会場ではそれに近いことを紹介しています。会場写真を撮影しましたので、そちらを参照願います。（1 ページ目及び以下の写真は、展示会場のほんの一部です。）

展示は、次のような内容で、スタートしています。（パンフレットの内容と同じ）

開催に当って

明治 5 年（1872）8 月、明治政府はそれまでの封建的な教育体制を否定し、四民平等の原則に立った「国民皆学」という新しい教育理念のもと、学制を制定しました。令和 4 年は、ちょうどその 150 周年に当たります。

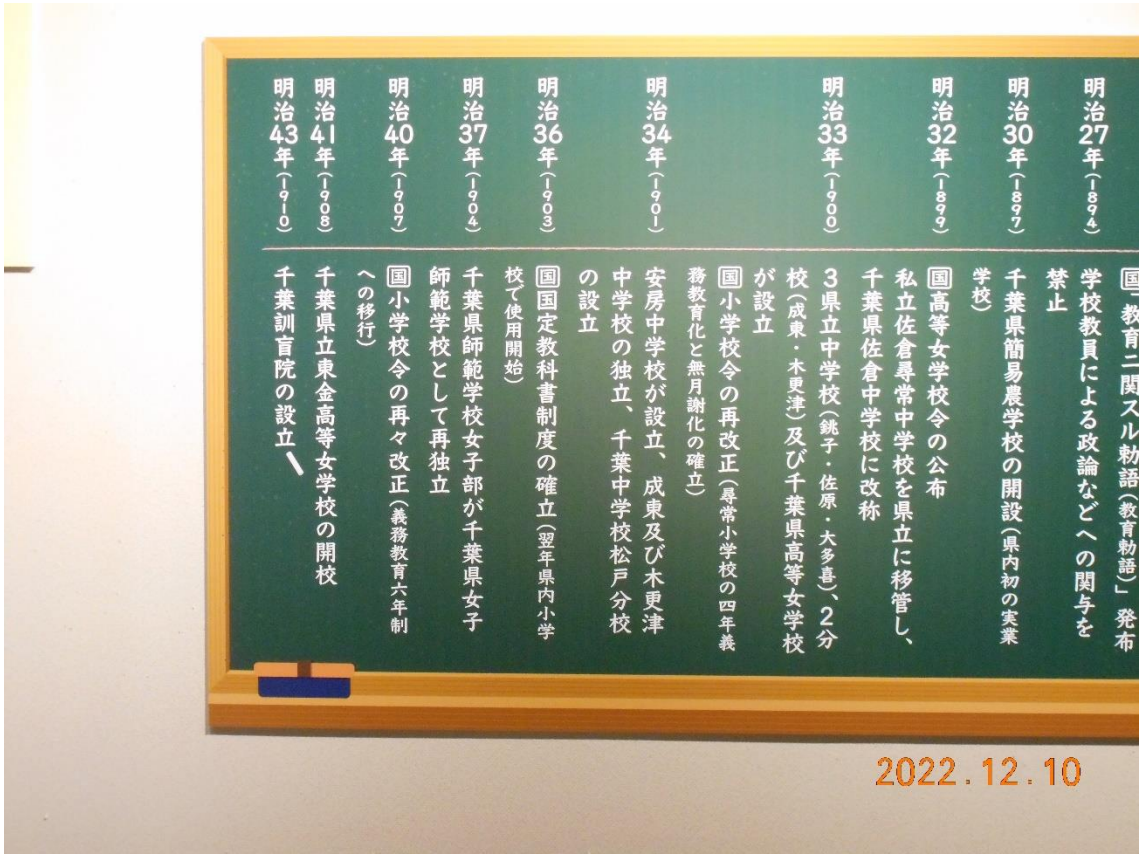
現在では、就学年齢になれば男女を問わず誰もが小・中学校の 9 年間学校に通うのが当たり前になっていますが、昨今のコロナ禍は現代の学校の在り方にも大きな影響を与えています。対面授業が困難になったり、学校行事を執り行うことが危ぶまれたりするなか、現場の先生たちは苦心しながらもより良い方法を模索し職務に励んでいます。その姿は、明治初期、県内各地に小学校が誕生し、江戸時代とは全く異なる新しい教育が進められることになった大きな変革のなかにあって、この時代の教壇に立った先生たちと重なり合うものがあるでしょう。

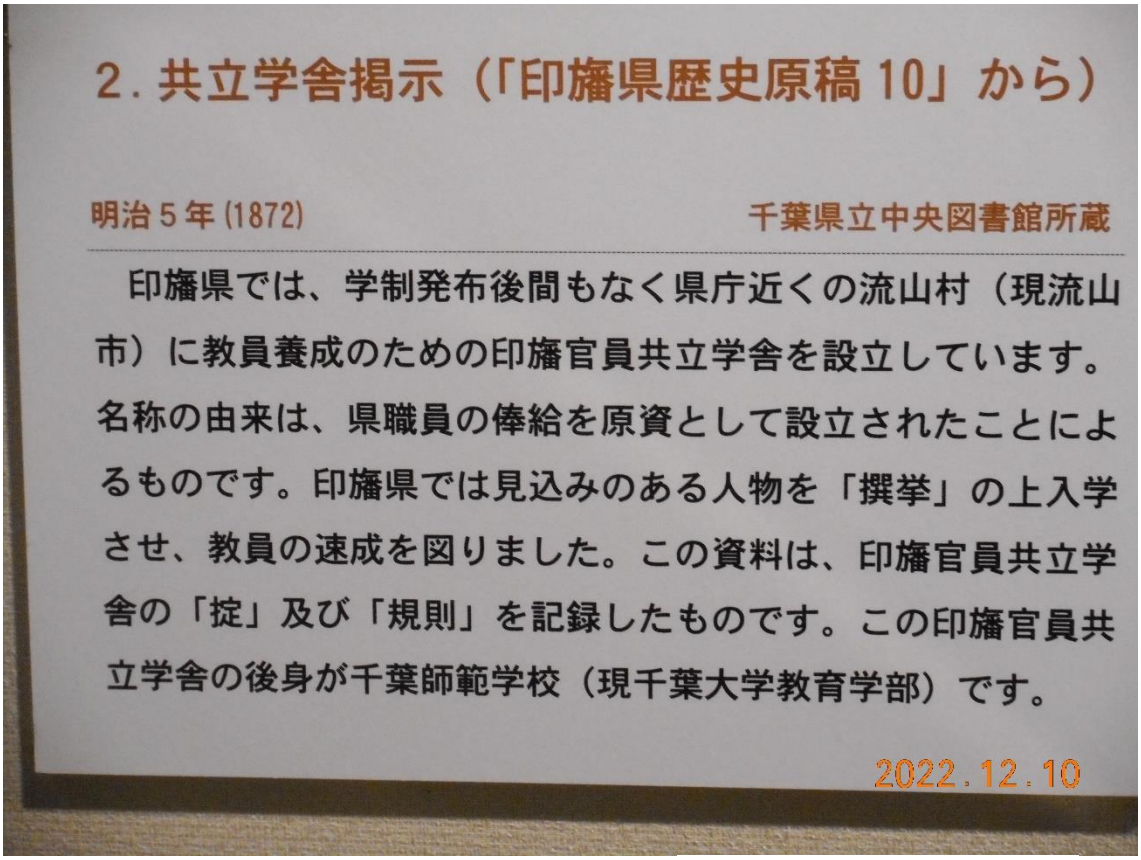
今回の展示では、学制発布以後、明治期に登場した新たな教育内容と教授法、移り変わる制度に試行錯誤しながらも、その時代に生きた学校の先生たちの痕跡を、当館収蔵資料を中心に紹介します。

令和 4 年 10 月　　千葉県文書館

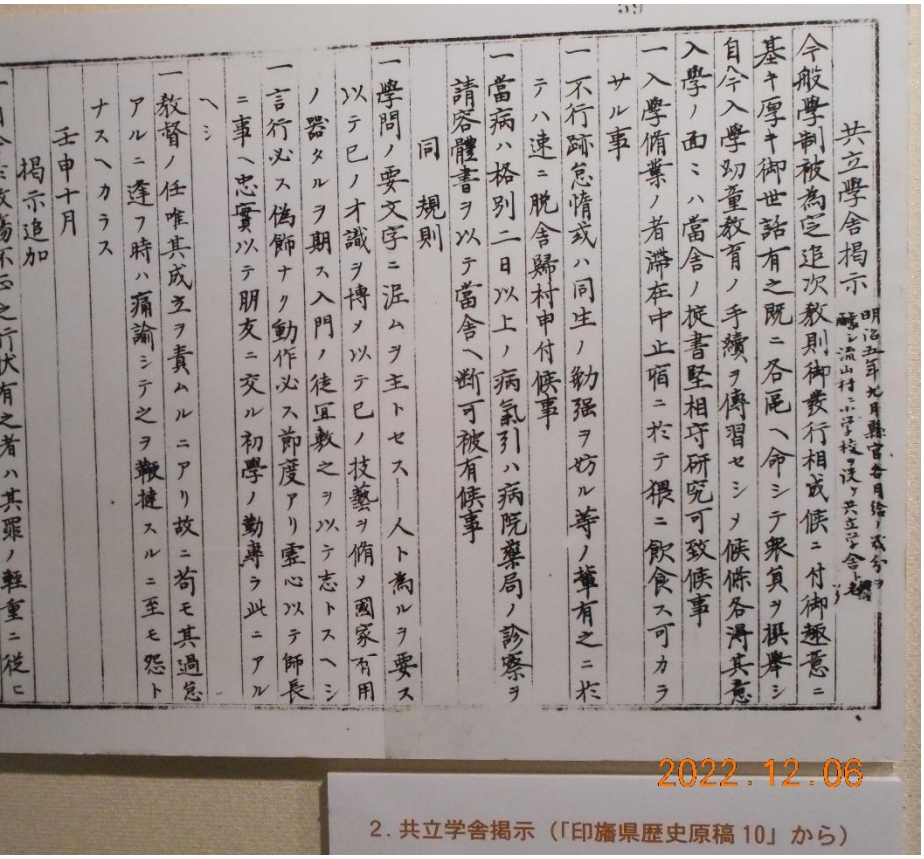
以下、会場展示写真

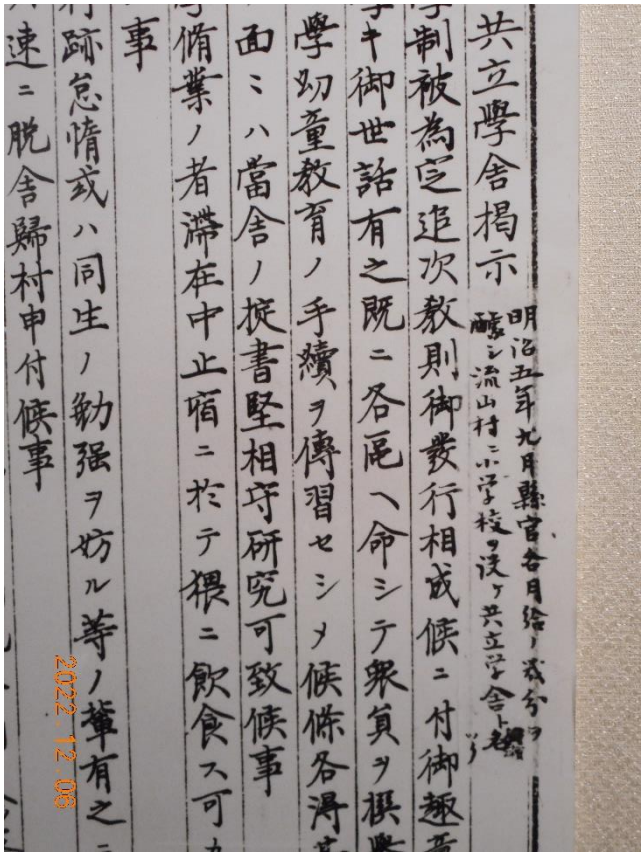
（不鮮明な写真も数枚ありますが、そのような内容のものが展示されているとご理解頂けると、有難いです。）

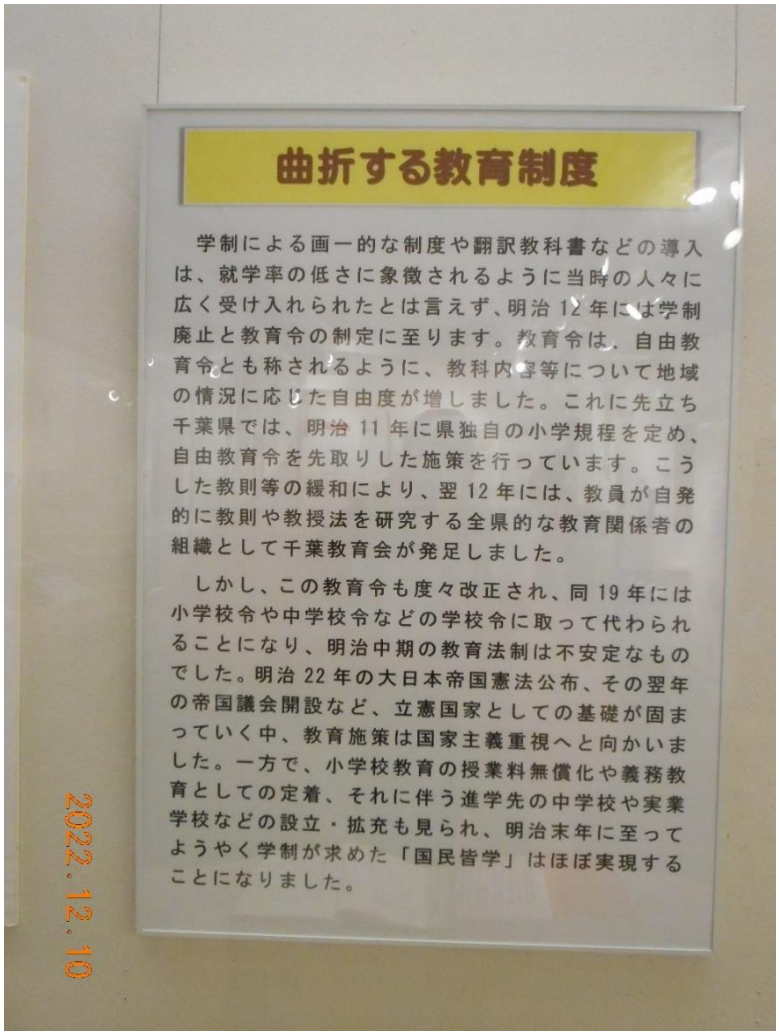



2. 共立学舎掲示（「印旛県歴史原稿 10」から）
明治５年 (1872)
千葉県立中央図書館所蔵
印旛県では、学制発布後間もなく県庁近くの流山村（現流山市）に教員養成のための印旛官員共立学舎を設立しています。名称の由来は、県職員の俸給を原資として設立されたことによるものです。印旛県では見込みのある人物を「撰挙」の上入学させ、教員の速成を図りました。この資料は、印旛官員共立学舎の「掟」及び「規則」を記録したものです。この印旛官員共立学舎の後身が千葉師範学校（現千葉大学教育学部）です。
2022.12.10

（写真下の説明書き）


共立學舎掲示
2022.12.06
2. 共立学舎掲示（「印旛県歴史原稿 10」から）


共立學舎掲示
2022.12.06

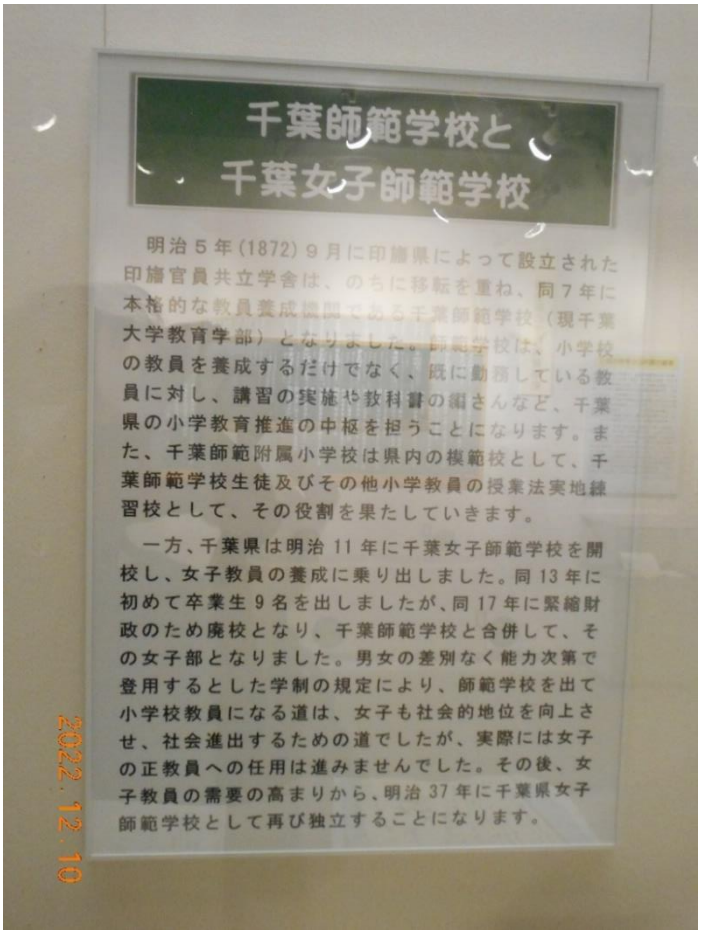


曲折する教育制度

学制による画一的な制度や翻訳教科書などの導入は、就学率の低さに象徴されるように当時の人々に広く受け入れられたとは言えず、明治 12 年には学制廃止と教育令の制定に至ります。教育令は、自由教育令とも称されるように、教科内容等について地域の情況に応じた自由度が増しました。これに先立ち千葉県では、明治 11 年に県独自の小学規程を定め、自由教育令を先取りした施策を行っています。こうした教則等の緩和により、翌 12 年には、教員が自発的に教則や教授法を研究する全県的な教育関係者の組織として千葉教育会が発足しました。

しかし、この教育令も度々改正され、同 19 年には小学校令や中学校令などの学校令に取って代わられることになり、明治中期の教育法制は不安定なものでした。明治 22 年の大日本帝国憲法公布、その翌年の帝国議会開設など、立憲国家としての基礎が固まっていく中、教育施策は国家主義重視へと向かいました。一方で、小学校教育の授業料無償化や義務教育としての定着、それに伴う進学先の中学校や実業学校などの設立・拡充も見られ、明治末年に至ってようやく学制が求めた「国民皆学」はほぼ実現することになりました。

2022.12.10

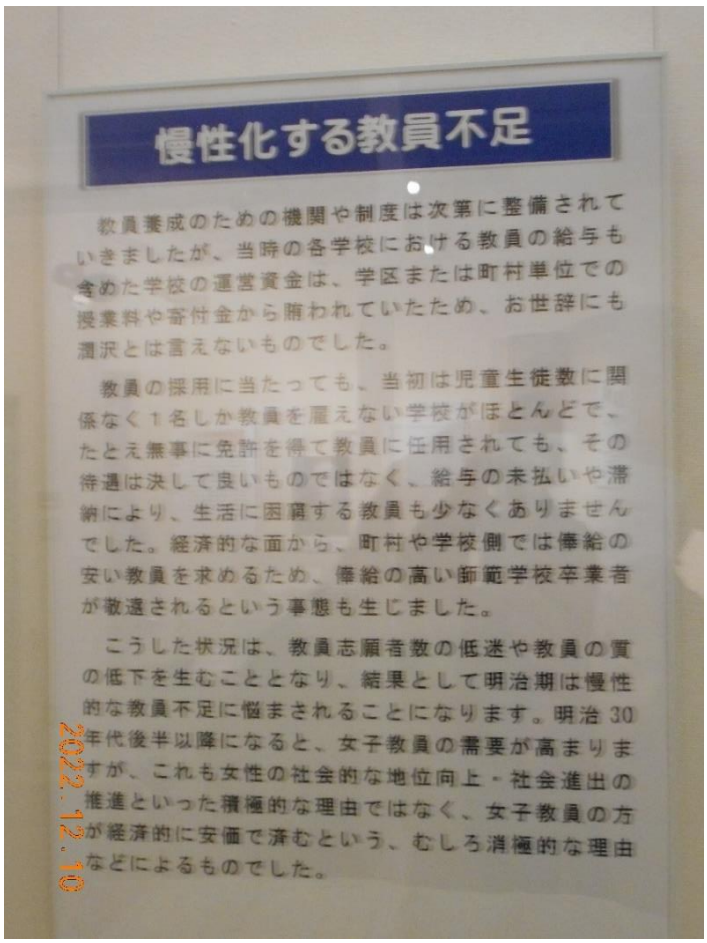


千葉師範学校と千葉女子師範学校

明治 5 年(1872) 9 月に印旛県によって設立された印旛官員共立学舎は、のちに移転を重ね、同 7 年に本格的な教員養成機関である千葉師範学校（現千葉大学教育学部）となりました。師範学校は、小学校の教員を養成するだけでなく、既に勤務している教員に対し、講習の実施や教科書の編さんなど、千葉県の小学教育推進の中枢を担うことになります。また、千葉師範附属小学校は県内の模範校として、千葉師範学校生徒及びその他小学教員の授業法実地練習校として、その役割を果たしていきます。

一方、千葉県は明治 11 年に千葉女子師範学校を開校し、女子教員の養成に乗り出しました。同 13 年に初めて卒業生 9 名を出しましたが、同 17 年に緊縮財政のため廃校となり、千葉師範学校と合併して、その女子部となりました。男女の差別なく能力次第で登用するとした学制の規定により、師範学校を出て小学校教員になる道は、女子も社会的地位を向上させ、社会進出するための道でしたが、実際には女子の正教員への任用は進みませんでした。その後、女子教員の需要の高まりから、明治 37 年に千葉県女子師範学校として再び独立することになります。

2022.12.10



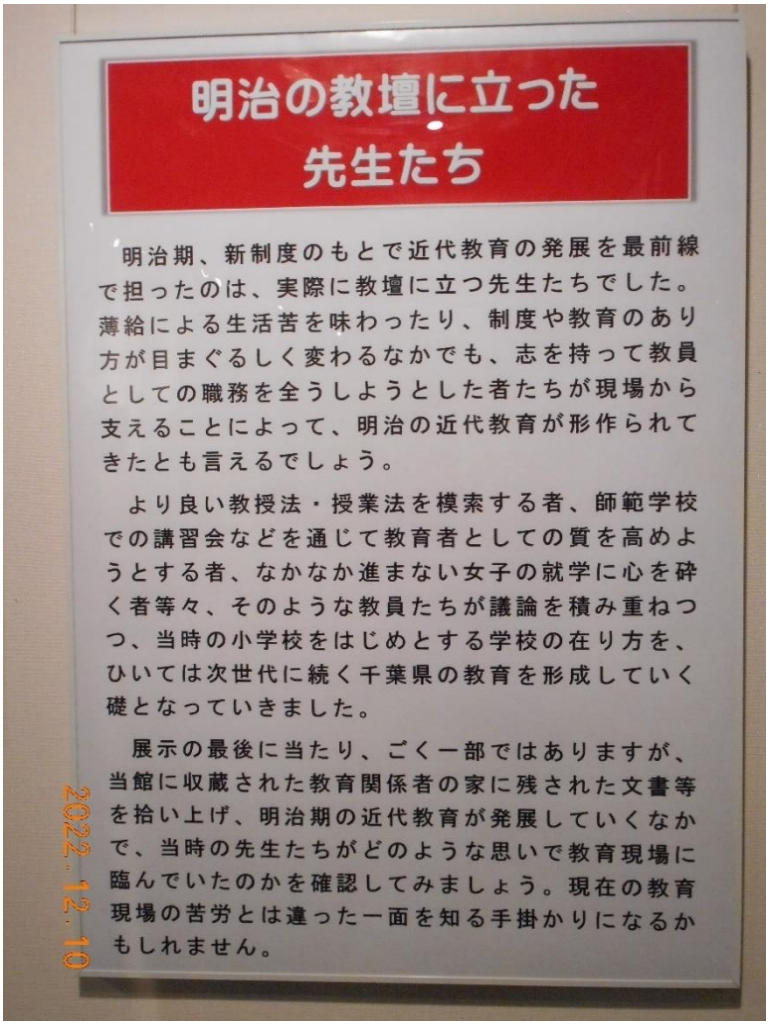
慢性化する教員不足

教員養成のための機関や制度は次第に整備されていきましたが、当時の各学校における教員の給与も含めた学校の運営資金は、学区または町村単位での授業料や寄付金から賄われていたため、お世辞にも潤沢とは言えないものでした。

教員の採用に当たっても、当初は児童生徒数に関係なく 1 名しか教員を置えない学校がほとんどで、たとえ無事に免許を得て教員に任用されても、その待遇は決して良いものではなく、給与の未払いや滞納により、生活に困窮する教員も少なくありませんでした。経済的な面から、町村や学校側では俸給の安い教員を求めるため、俸給の高い師範学校卒業者が敬遠されるという事態も生じました。

こうした状況は、教員志願者数の低迷や教員の質の低下を生むこととなり、結果として明治期は慢性的な教員不足に悩まされることになります。明治 30 年代後半以降になると、女子教員の需要が高まりますが、これも女性の社会的な地位向上・社会進出の推進といった積極的な理由ではなく、女子教員の方が経済的に安価で済むという、むしろ消極的な理由などによるものでした。

2022.12.10



明治の教壇に立った先生たち

明治期、新制度のもとで近代教育の発展を最前線で担ったのは、実際に教壇に立つ先生たちでした。薄給による生活苦を味わったり、制度や教育のあり方が目まぐるしく変わるなかでも、志を持って教員としての職務を全うしようとした者たちが現場から支えることによって、明治の近代教育が形作られてきたとも言えるでしょう。

より良い教授法・授業法を模索する者、師範学校での講習会などを通じて教育者としての質を高めようとする者、なかなか進まない女子の就学に心を砕く者等々、そのような教員たちが議論を積み重ねつつ、当時の小学校をはじめとする学校の在り方を、ひいては次世代に続く千葉県の教育を形成していく礎となっていきました。

展示の最後に当たり、ごく一部ではありますが、当館に収蔵された教育関係者の家に残された文書等を拾い上げ、明治期の近代教育が発展していくなかで、当時の先生たちがどのような思いで教育現場に臨んでいたのかを確認してみましょう。現在の教育現場の苦労とは違った一面を知る手掛かりになるかもしれません。

2022.12.10

2022.12.10

62. 初学読本掛図

明治 14 年 (1881)　　県総合教育センター文書（整理中）

本掛図は、小池民次が著した『初学読本』内の「単語第八」と同内容のものです。『初学読本』を教科書とした授業で用いられたものと思われます。単語図は、教える単語に絵を加えて理解しやすいようにしており、掛図の絵及び語を指し示しながら教師がまず唱え、続けて生徒一人一人に唱えさせ、最後に生徒全員が唱えるといった具合に徹底した読みの訓練が行われました。当時の小学生が読んだ字、皆さんはわかりますか？

2022.12.10

（写真右上の説明書き）

以上